

9:00~10:00

## 教育研修講演1：手関節の解剖とバイオメカニクス

座長：内山 茂晴（岡谷市民病院 整形外科）

### EL1-1 手関節の解剖

Anatomy of wrist joint

二村 昭元

東京医科歯科大学大学院 運動器機能形態学講座 運動器機能形態学講座

手関節における代表的疾患として、三角線維軟骨複合体（TFCC）損傷と橈骨遠位端骨折に関する解剖について概説する。橈尺靭帯は、尺骨茎状突起の基部背側・側面・頂部へと線維方向の変化を伴いながら、線維軟骨を介して付着している。掌側月状骨窩骨片として着目される、橈骨遠位端掌尺側骨隆起に関しては、組織学的な線維配向性の観点から、橈尺靭帯の付着を理解する必要がある。

### EL1-2 手根骨(部分)切除により手関節のバイオメカニクスはどう変わる？—手関節切除形成術がバイオメカニクスに与える影響—

Biomechanical perspective of carpal bone resection

面川 庄平

奈良県立医科大学 手の外科学

手根骨切除は、手根骨の部位や切除量により手根不安定性をきたす可能性がある。手関節疾患や外傷において、手関節の切除形成術が効果的な病態が臨床的に存在する。本講演では、手根骨の部分切除あるいは全切除がどのような症例に行われるか、手関節の骨切除形成術により手関節のバイオメカニクスが如何に変化するかについて解説する。